

いのちと健康を守る活動

母と子の命を守る助産所事業の第1歩 建設資金へのご協力をお願いします

2002年以来継続してきたPIHSとの協働事業、母子保健医療活動の集大成と位置付ける助産所建設、運営、研修プログラムからなる事業の詳細が決まりました。

私たちが10年前に支援したウハウ研修所の敷地内に、保健省基準を満たす分娩室、回復室、研修室からなる約100平方メートルの助産施設を建設するというものです。(右の図面参照)

当団体だけでなく、PIHS代表ナプサさんのドイツの友人を通じて、小口資金を集めるほか、無肛門症のナセル君手術でも協力を得たKAFIN(在日フィリピン女性の会)などの協力も期待できます。

助産所を建設し、医療備品などを整え、健康保険適用の分娩介助を開始することが1年以内の目標です。これで、助産所運営の自主財源を生み出すとともに、研修ルームでの妊婦や母子栄養研修を通じて、広く妊産婦と乳幼児の健康増進を目指します。

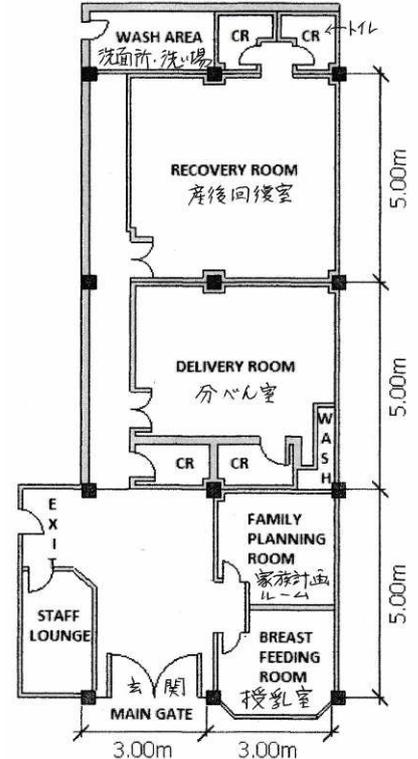
まず「助産所を建てる」ために、会員、市民の皆様のご協力のお願いをさせていただくことにいたしました。前号でもお伝えのように、一步一步、各種研修の開始を含む3年計画の事業を進めていくために、自己資金での実施をめざしています。

**貧困、辺境という医療サービスに恵まれない母子の命を守るため
一口1000円の助産所基金にご協力をお願いいたします。**

当団体の募金目標額 100万円

助産所建設予定地ウハウは、ジェネラルサントス市郊外バラングイ・ファティマにあり、ムスリムだけでなく、チボリ、ビラーン等のルーマドと呼ばれる先住民族、入植者の子孫であるビサヤ人など多様な民族が住んでいます。ムスリムに限らず、広く門戸を開いた助産施設を目指しています。

助産所開設予算概要 (単位: 円)	
建設費合計:	1,500,000
備品・薬品:	350,000
合計:	1,850,000



遠方からの妊産婦については、付き添いの家族の宿泊施設が必要です。これには既存の研修施設を充当する予定です。

フィリピンの栄養改善月間、7月の活動から

PIHS 活動地域での家庭の食卓にみえた変化
長い間、貧しい世帯では朝食抜きか、食べてもイモ類だけでした。しかし、コミュニティーごとの栄養研修や幼児クラスの給食支援を実施することによって、ココナツミルク入りマルンガイ葉のスープ、裏庭の野菜や野草のスープ等と、キャッサバやコーンライスを組み合わせた朝食が増えてきました。
(PIHS ナプサさんの報告から)

山の学校でも野菜いっぱいの給食
山岳部辺境に位置するビラーンの村の子どもたちが、元気に学校に通い、初等教育を終了するうえで欠かせない週3回の学校給食。
家庭での野菜作り奨励も教師たちの仕事で、成果が出てきました。
(CMIP ナブルカマガヤ小報告から)



子どもたちが持参したウリやカボチャが山盛りの教室

—CMIPの医療・保健事業、2名のカレッジ奨学生の入院支援をしました—
 Dengue熱が重症化、輸血が必要になったカレッジ3年のカレンと、膀胱炎で入院の男子学生計2名の治療費を支援しました。医学部進学予定のジェニーを除き、カレッジ奨学生はノビシエート寮に戻り衛生状況は改善されましたが、Dengue熱やマラリア罹患を防ぐため、担当のチャリスさんには蚊帳の使用を徹底するようにお願いしました。